

令和4年度版『ひろがる言葉 小学国語 六上』年間指導計画・評価計画(案)

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4	—	六年生で学ぶこと				
4	—	言葉で伝え合おう				
4	2 (話す聞く 2)	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。⇒思判表A(2)ア	1・2	○クラスみんなに聞いてみたい質問を出し合い、考えを交流するという学習の見通しをもつ。 1. みんなへの質問をカードに書く。 ・教科書の例を参考にしながら、質問を考える。 2. カードを引いて、質問を決める。 3. 質問にどう答えるか、考える。 ・自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。 4. グループで発表する。 5. 感想を伝え合う。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。([知識及び技能](1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。([思考力、判断力、表現力等]Aア) 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
4	1	風景 純銀もぎいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	3	1.『風景 純銀もぎいく』を音読する。 (1)1連・2連・3連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 (2)音読して気づいたことや気になったことを挙げ、交流する。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ) ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。([知識及び技能](1)ケ) ◎【思判表】人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
	2	あの坂をのほれば	□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。⇒知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	4 5	○学習の見通しをもつ 確かめよう 1. 全文を音読し、言葉の意味を考えたり、確認したりする。 考えよう・深めよう 2. 登場人物の心情が分かるところを見つけ、心の動きを想像しながら声に出して読む。 (1)登場人物の心情が分かるところを見つける。 (2)登場人物の心の動きを想像しながら声に出して読む。 広げよう 3. すてきだと思ふ情景について、感想を話し合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。([知識及び技能](1)カ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。([思考力、判断力、表現力等]Cエ) 【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4	3 (書く3)	図に表して考えよう	<p>■考えや意見を図に書いてまとめる。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆全ての学習:ノート作りに活用できる。</p>	1 2 3	<p>○教科書を読んで、考えを広げたり、まとめたりする際には、いろいろな図があることを知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 実際に考える図を使ってみる。(随筆や意見文を書く際に使う。)</p> <p>2. 意見をまとめるノート作りを、学期に15分程度の1モジュールずつ確認し、交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。([知識及び技能](2)イ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)</p> <p>【態度】粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	11 (書く6)	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。			
5	3 (書く1)	春はあけぼの	<p>△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみを持ち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。</p>	1	<p>○単元とひらを読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. p.22を読み、教材の概略をつかむ。</p> <p>2. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。</p> <p>3. 各「季節」の情景をイメージする。</p>	<p>◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。([知識及び技能](3)ア)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。([思考力、判断力、表現力等]Cカ)</p>
				2・3	<p>4. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。</p> <p>5. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。</p>	<p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3	薫風 「迷う」	<p>□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。</p> <p>△文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：随筆の読みをとおして、真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようと考える。</p>	4	<p>○単元とびらを読んで、学習の見直しをもつ。</p> <p>確かめよう 1. 二つの随筆を読んで、筆者が取り上げているものや、どのような思い、事例を挙げているのか確かめる。 (1)「薫風」のもともとの意味を確かめ、それに対して筆者(薫さん)はどのようなものを「薫風」の例に挙げているのか考える。 (2)それぞれの「薫風」に対する筆者(薫さん)の思いを、ノートにまとめる。 (3)「迷う」「迷わない」の事例や、事例に対する筆者(日高さん)の考えを表にまとめ、それぞれの事例や筆者の考えについて話し合う。</p>	<p>◎【知技】文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。〔思考力、判断力、表現力等〕Cア ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ</p>
				5	<p>考えよう 2. 二つの随筆を比べ、話し合う。 (1)二つの随筆を比べ、①取り上げている具体例は何か(何を通して)。②個性的な表現はどこか。③筆者独自のものの見方・考え方は何か。について話し合う。 (2)「薫風」に、薫さん独自の意味を加えたことで、どのような効果があったのか話し合う。 (3)「迷う」に対して、日高さんがどのように考えているについて話し合う。</p>	<p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。</p>
				6	<p>深めよう 3. それぞれの随筆に対する感想をノートにメモして、紹介しあう。</p> <p>○学習をふり返ろう</p>	
5	5 (書く5)	随筆を書こう	<p>■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知・技能(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。</p>	7	<p>○「学習の進め方」を読み、学習の見直しをもつ。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知識及び技能〕(1)オ ◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。〔知識及び技能〕(1)ク ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ</p>
				8	<p>決めよう・集めよう(重点) 1. 書く事柄を決める。 ・仮のテーマ「風」について、どのような経験があるか考える。</p>	
				9・10	<p>組み立てよう(重点) 2. 体験や事例を書き出し、自分の考えをまとめる。</p> <p>書こう・読み返そう 3・4. 読み返しながらかく。</p>	
				11	<p>伝え合おう 5. 友達と読み合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	<p>△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。</p> <p>2. p.46の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。</p> <p>3. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。</p> <p>4. 切れ目に「/」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。</p> <p>5. 略語と、略す前の熟語とを比べる。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔(知識及び技能)(1)オ〕</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心もち調べようとしている。</p>
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	2	<p>6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>7. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。〔(知識及び技能)(1)エ〕</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔(思考力、判断力、表現力等)Bイ〕</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	5 (書く2)	二 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	□■雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめる。			
	5(書く2)	雪は新しいエネルギー	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。⇒思判表C(2)ア	1・2 3 4 5	○環境に関する言葉を巡って話し合い、学習の見通しを持つ。 確かめよう 1. (1)「地球温暖化」や「異常気象」「再生可能エネルギー」などの言葉について、知っていることを話し合う。 (2) p.52⑥段落までを読んで、「雪はエネルギー」とはどのようなことか説明する。さらに、雪がエネルギーだとすると、どのように利用できるか、⑤段落の事例をヒントに話し合う。 考えよう 2. (1) 筆者があげている雪エネルギーの利用について、事例ごとにその利用の仕方や利点などをノートにまとめる。 (2) 筆者が、雪をエネルギーとして利用することを主張しているのはなぜか、「化石燃料」「再生可能エネルギー」という言葉を使って説明する。 (3) 雪エネルギーの利用によって、筆者は、雪国の暮らしにどのような変化の可能性を考えているか、また、どのような課題があると言っているか、説明する。 深めよう 3. (1) 筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際に取り上げている事例の順序を検討し、そのようにする筆者の意図について話し合う。 (2) 筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際、克服しなければならない課題にも触れていることの効果を考え、話し合う。 広げよう 4. (1) 「雪は新しいエネルギー」を読んで、筆者の考えや説明の仕方について、考えたことを文章にまとめる。 (2) 書いた文章を友達と読み合い、感想を話し合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。([知識及び技能](2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。([思考力、判断力、表現力等]Cア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。([思考力、判断力、表現力等]Cウ) 【態度】積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。
5	2	主語と述語の対応をみる	△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ	1 2	○冒頭の会話文を通して、文を見直す際に主語と述語の対応を確認することが大事だということを知る。 1. 教科書の例文を読み、どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。 2. ねじれ文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 3. 作文を書くときに、主語と述語の対応をよく確認しているかふり返る。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。([知識及び技能](1)カ) 【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	10 (話す聞く 6,書く4)	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇■立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。			
6	6 (話す聞く 6)	地域の防災について話し合おう	◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ ☆特別活動・総合的な学習の時間など：問題意識や互いの立場・主張を明確にしながら、計画的に話し合う。	1 2 3 4 5 6	○単元名やリード文を読み、お互いの意見を尊重し合いながら話し合うことについて考え、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 立場を決め、くわしく調べる。 (1)教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。 (2)自分たちで話し合うテーマを設定する。 組み立てよう 2. 資料をもとに主張を組み立てる。 (3)自分たちが設定したテーマにそって準備をし、パネルディスカッションを行う。 *テーマに対する観点とグループのメンバーを決める。 *グループで情報を調べたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめる。 話そう・聞こう(重点) 3. パネルディスカッションを行う。 *司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 (4)2 回目・3 回目を行う。 伝え合おう 4. 感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。([思考力、判断力、表現力等]Aオ) 【態度】粘り強く意見の違いを大事にしながら話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。
6	4 (書く4)	パンフレットで知らせよう	■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：事物を紹介する活動でも活用できる。	1 2 3・4	○教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 違う立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。 組み立てよう(重点) 2. 書く分担を決め、構成を考える。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. パンフレットを作り、読み返す。 伝え合おう 5. パンフレットを読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。([知識及び技能](2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。([思考力、判断力、表現力等]Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。([思考力、判断力、表現力等]Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。([思考力、判断力、表現力等]Bオ) 【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	1 (書く1)	雨	<p>△「雨」を扱った言語表現を集める。</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ</p>	1	<p>1. 教科書の文章から「雨」を取り上げた言語表現を知り、その背景を考える。</p> <p>2. 「雨」に関するさまざまな言語表現を、辞典などで調べたり、これまで読んだ本の描写を思い出し確かめたりしながらノートに書く。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>【態度】粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。</p>
7	2	世代による言葉のちがい	<p>△世代による言葉の違いについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ</p>	1 2	<p>○世代によって使用する言葉に違いがあることもあるということを知り、学習活動に対する見通しをもつ。</p> <p>1. 言葉には、年上の世代の人たちには使われていたが、今はほとんど使われなくなったものがあるということについて理解する。</p> <p>2. 言葉には、自分たちの世代にしか通用しないものもあるということを理解する。</p> <p>3. 言葉には、人が成長する過程で一時的に用いられるものもあるということを知る。</p> <p>4. 家の人に行ったインタビューの内容をグループでまとめて確かめあう。</p> <p>5. 世代によって使われる言葉の違いや、普段友達どうしで話しているときに使ってしまうくだけた表現の言葉について、クラス全体で話し合う。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	<p>◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ)</p> <p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ)</p> <p>【態度】積極的に世代による言葉の違いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 1. 「象」という漢字の意味を考える。 2. p.80下段を読み、「象」という漢字には、もとの意味と、派生した意味をあわせて知っていることを知る。 3. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。 4. p.81下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。〔知識及び技能〕(3)ウ 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見直しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	7 (話す聞く2)	四 すぐれた表現の効果を考 えて、登場人物の心情を読もう	□優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、 優れた表現についての感想を話し合う。			
7		川とノリオ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎ 知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。⇒◎知技 (1)ケ △文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続 の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と その特徴について理解すること。⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え 合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し 合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表 A(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を 基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり 、表現の効果を考えたりすること。⇒◎思判表 C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考 えをまとめること。⇒思判表C(1)◎オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分 の考えを広げること。⇒思判表C(1)◎カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞 いたりする活動。⇒思判表A(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自 分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりす る活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳:物語の読みをとおして、生命がかけがえのな いものであることを知り、自他の生命を尊重しようとす る。	1 2~4 5 6~7	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 印象に残った場面を紹介し合う。 考えよう 2. 出来事の確認や、登場人物の変容、表現の工夫や効 果について考えたり話し合ったりする。 (1) いつ、どのようなできごとが起こったのか表に整理す る。川や川つぶちがノリオに対してどのような様子であ ったか考える。 (2) 物語の中で、ノリオはどのように変容したのか。なぜ 変容したのか話し合う。 (3) 次のような表現を他にも探し、その効果について話し 合う。 「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」「音や様子」「くり返し」 深めよう 3. この物語における「川」とは何を表しているのか、全体 の構成や、「川とノリオ」という題名をもとに考える。 広げよう 4. 心に残った表現を見つけ、感想を話し合う。自分の感 じたことが伝わるように朗読する。 ○学習のふり返り。	◎【知技】比喩や反復などの表現 の工夫に気付いている。〔知識及 び技能〕(1)ク ◎【知技】文章を音読している。 〔知識及び技能〕(1)ケ 【思判表】「話すこと・聞くこと」にお いて、互いの立場や意図を明確に しながら計画的に話し合い、考え を広げたりまとめたりしている。 〔思考力、判断力、表現力等〕A オ) ◎【思判表】「読むこと」において、 登場人物の相互関係や心情など について、描写を基に捉えている。 〔思考力、判断力、表現力等〕 Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、 人物像や物語などの全体像を具 体的に想像したり、表現の効果を 考えたりしている。〔思考力、判断 力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、 文章を読んで理解したことに基づ いて、自分の考えをまとめている。 〔思考力、判断力、表現力等〕C オ) ◎【思判表】「読むこと」において、 文章を読んでまとめた意見や感想 を共有し、自分の考えを広げてる。 〔思考力、判断力、表現力等〕 Cカ) 【態度】進んで優れた表現を味わ いながら、人物の心情を読み優れ た表現を味わいながら、人物の心 情を読み、学習の見通しをもって 優れた表現についての感想を話し 合おうとしている。
9	2 (話す聞く 2)	教えて！あなたの「とってお き」	◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と 比べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあるこ とに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語 句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知 技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決 め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え 合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、 話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分 の考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、そ れらを発表したりする活動。⇒思判表A(2)イ	1 2	1. 知らせたい「とっておき」を考える。 (1) 教科書の例を参考にしながら、友達と共通点があり そうな質問の項目を学級で話し合う。 (2) 項目から三つ選び、エピソードを思い出す。 2. 話そう・聞こう(重点) 2. 「とっておき」について話す。 (3) 二人で組になり、エピソードを挙げながら順番に話を する。 3. 感想を伝え合う。 (4) 友達のエピソードと自分の考えを紹介する。 (5) 紹介を聞き終わったら、感想を伝える。	◎【知技】言葉には、相手とのつな がりをつくる働きがあることに気付 いている。〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」に おいて、話し手の目的や自分が聞 こうとする意図に応じて、話の内容 を捉え、話し手の考えと比較しな がら、自分の考えをまとめている。 〔思考力、判断力、表現力等〕A エ) 【態度】積極的に話し手の意図を 考慮し、今までの学習を生かして 自分の意見と比べて考えをまとめ ようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1	詩を味わおう イナゴ	<p>□言葉の広がりを楽しむながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ</p>	1	<p>1. 一連と二連の「イナゴ」と「ほく」の様子をもとに、詩の世界をイメージする。</p> <p>2. 三連について考えたことを話し合う。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。([知識及び技能](1)オ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。([思考力、判断力、表現力等]Cイ)</p> <p>【態度】積極的に言葉の広がりを味わい、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。</p>
9	1 (書く1)	「知恵の言葉」を集めよう	<p>△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	1	<p>1 暮らしの中に、ものの名前や物事の手順を唱え言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲を持つ。</p> <p>2 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。</p> <p>3 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。([知識及び技能](1)オ)</p> <p>◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。([知識及び技能](2)ア)</p> <p>【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。([思考力、判断力、表現力等]Bア)</p> <p>【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見直しをもって自分の「知恵の言葉」をつくろうとしている。</p>

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	5 (書く5)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。			
		物語を作ろう	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、話や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	1 2 3・4 5	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 写真の中から登場人物を決め、人物設定をする。 (1) 写真を見て想像を広げる。 (2) 登場人物を選び、人物設定を「人物カード」に書く。 組み立てよう(重点) 2. 物語を組み立てる。 (1) 物語の大まかな展開を考える。 (2) グループで話し合い、読者の視点も加えて構成を考える。 (3) あらすじを書く。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. 物語を作り、読み返す。 伝え合おう 5. 友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。〔知識及び技能〕(1)カ ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ 【態度】積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
	3 (話す聞く1)	会話を広げる	△相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒◎知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	1 2 3	○相手とのつながりをつくる言葉のはたらきについて学習することを理解し、学習の見通しをもつ。 1. 会話をするとき話のきっかけとなる話題を作ること意識し、相手のことを考えて言葉を選ぶことの大切さを考える。 2. 言葉の内容だけでなく、言い方にも工夫が必要であることを考える。 3. 電話で相手が見えない場合の円滑なコミュニケーションはどうすればいいのか考える。 4. 同じ音である「うん。」でも込められる気持ちや言葉のはたらきが違うことを考える。 5. 相手が話すことを促すための工夫を考え、話し合う。 6. 会話の中でコミュニケーションを上手にとるための、話すときと聞くときの工夫を考え話し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ 【態度】積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	<p>△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p>	1	<p>○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。</p> <p>2. 「経験」と「体験」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。</p> <p>3. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを</p>	<p>◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((【知識及び技能】(1)オ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。</p>
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けられること。⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p>	2	<p>4. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。</p> <p>5. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。</p> <p>6. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。</p> <p>○学習したことをふり返る。</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((【知識及び技能】(1)エ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。((【思考力、判断力、表現力等】Bオ)</p> <p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。</p>

令和4年度版「小学 書写 六年」年間指導計画・評価計画（案）

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	文字の旅	○日本の文字の歴史について知り、興味・関心を高めることができる。	○「文字の旅」を読み、知っていることや興味をもったことを話し合い、日本の文字の歴史を知る。	アウ	B ：日本の文字の歴史について知っている。	B ：文字が日本に伝わって現代に至るまでの流れについて考えている。	B ：日本の文字の歴史について関心をもち、調べていこうという意識をもっている。
		2・3	六年生で学習すること 目次	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、学習のめあてを知る。 ○1年間の学習内容を知る。	アウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常により姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書の紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解する。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を書く。 ○自分の課題を見つけて練習する。 ○自分の課題とした「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを考えている。筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。
							A ：日本の文字の歴史について理解している。	A ：文字が日本に伝わって現代に至るまでの流れについて、よく考えている。	A ：日本の文字の歴史について関心をもち、積極的に調べていこうという意識をもっている。
							支援 ：これから社会科で学習する内容と関連づけて説明するようにする。話し合いの観点として、文字の歴史に関する事で知っていることがあるか、問いかけるようにする。	支援 ：教科書紙面を見ながら、全体の流れについて確かめられるようにする。	支援 ：教科書の図版について、見たことのあるものはあるか問いかける。他教科との関連を知らせることで、関心がもてるようにはたらきかける。
							A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。		A ：1年間の学習内容を知り、進んで書写学習に取り組む意欲をもっている。
							支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
							A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。	A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さあしを判断できる。筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。	A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。常により姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							<p>支援：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。</p>	<p>支援：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。</p>	<p>支援：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。</p>
5・6月		9・10	2 文字の大きさと配列 『歩む』	<p>○文字の大きさと配列を理解することができる。</p> <p>○文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○文字の大きさと配列を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>○『歩む』を硬筆や毛筆で試書する。</p> <p>○試書と教材文字を比べて話し合う。</p> <p>○漢字と仮名の形や大きさの違いと配列の整え方について確認し、練習する。</p> <p>○『歩む』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。</p> <p>○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。</p> <p>○目標に沿って、自己評価をする。</p> <p>○巻末漢字表などを見ながら、漢字と仮名を組み合わせた言葉を作って書く。</p>	アイウ	<p>B：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。</p> <p>A：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。</p> <p>支援：練習用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。</p>	<p>B：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。</p> <p>A：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。</p> <p>支援：教科書の文字例から、つり合いがとれていない文字の理由について問いかける。</p>	<p>B：ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：漢字と仮名を組み合わせた文章の例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。</p>
	3～4	11	【レッツ・トライ】 メモ —話し合いメモ	<p>○目的にふさわしい書く速さについて理解することができる。</p> <p>○許容される書き方について知り、関心をもつことができる。</p>	<p>○書く場面について具体例をあげて、目的に応じてどのような速さで書けばよいか話し合う。</p> <p>○限られた時間のなかでメモを取るときの工夫を話し合う。</p> <p>○許容される書き方について知る。</p> <p>○許容される書き方で、実際に書いてみる。</p>	アウ	<p>B：目的に応じた書き方について理解している。許容される書き方について知っている。</p> <p>A：目的に応じた書き方について、よく理解している。許容される書き方について理解している。</p> <p>支援：許容される書き方について、使用すると便利な場面や、使用を控えた方がよい場面について、確かめられるようにする。</p>	<p>B：さまざまな場面に適した書き方について、話し合っている。</p> <p>A：さまざまな場面に適した書き方について、積極的に話し合っている。</p> <p>支援：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。</p>	<p>B：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方を知り、関心をもっている。</p> <p>A：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に積極的に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方について関心を持ち、積極的に調べている。</p> <p>支援：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。許容される書き方について、教科書を参照しながら点画の変化した形を確かめられるようにする。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	3	12・13	3 文字の組み立て方（三つの部分） 『湖』	<p>○三つの部分の組み立て方を理解することができる。</p> <p>○三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。</p> <p>○三つの部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>○『湖』を硬筆や毛筆で試書する。</p> <p>○試書と教材文字を比べて話し合う。</p> <p>○三つの部分の組み立て方について確認し、練習する。</p> <p>○『湖』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。</p> <p>○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。</p> <p>○目標に沿って、自己評価をする。</p> <p>○巻末漢字表などから三つの部分の組み立て方に気をつける漢字を探して書く。</p>	アイウ	<p>B：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解している。三つの部分の組み立て方に気をつけて書いている。</p> <p>A：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：ほかの文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみることができるようにする。点画のゆずり合いが確認できるようにする。</p>	<p>B：三つの部分の組み立て方について考えている。</p> <p>A：三つの部分の組み立て方の良しあしを考えている。</p> <p>支援：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。</p>	<p>B：三つの部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：三つの部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
		14	<p><硬筆の学習> 文字の組み立て方（左右、上下、中と外）</p> <p>○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>○左右、上下、中と外の組み立て方のできた教科書の教材文字を書く。</p> <p>○教科書の組み立て方の図を見ながら基準を理解する。</p> <p>○筆順と字形の関わりについても確認する。</p> <p>○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて練習用紙に練習する。</p> <p>○目標と基準を確認しながらまとめ書きをする。</p>	アウ	<p>B：左右、上下、中と外の組み立て方について理解している。左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて書いている。</p> <p>A：左右、上下、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> <p>支援：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。</p>	<p>B：左右、上下、中と外の部分の組み立て方について考えている。</p> <p>A：左右、上下、中と外の組み立て方の良しあしを考えている。</p> <p>支援：教科書の図版を参照し、組み立て方について確かめられるようにする。</p>	<p>B：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。</p> <p>A：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。</p> <p>支援：左右、上下、中と外から構成されるさまざまな文字について調べること、関心を高めるようにする。</p>	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	15		【レッツ・トライ】 ノート 一語のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもち、工夫して書くことができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して、工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し、学級で共有する。 ○学習したことを生かして、次時のノートをとる。	アウ	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。 支援 ：箇条書きで書く際の行頭のあげ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。自分の普段のノートを見直してみ、わかりにくい点はないか確かめるようにする。	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。 支援 ：どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。	B ：書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。 支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。
1	16・17		【レッツ・トライ】 リーフレット 一校外学習のリーフレット	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記用具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	○必要事項を入れて、リーフレットの下書きを書いてみる。 ○教材例を見ながら基準を理解する。 ○折り方とレイアウトを考える。 ○書く目的に応じた筆記用具を選択する。 ○相手に内容が伝わりやすい表し方を考えて練習する。 ○配置の補助線を引くなど工夫して、実際のリーフレットをまとめ書きする。 ○リーフレットを見せ合い、考えを深める。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
適時	18		【知りたい 文字の世界】 文字の成り立ち	○身のまわりで見られる文字を知り、興味・関心を高めることができる。 ○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○現代でも見られる昔に作られた文字や、文字は何のためにあるかについて考え、グループで話し合う。 ○昔に作られた文字について調べる。 ○調べたり話し合ったりした結果を発表する。	アウ			B ：文字の成り立ちについて関心をもち調べている。 A ：文字の成り立ちについて関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：ほかの平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9月	3	19～21	4 文字の大きさと配列、点画のつながり『思いやり』	<p>○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。</p> <p>○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。</p> <p>○文字の大きさと配列、点画のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。</p>	<p>○硬筆と毛筆で『思いやり』を試書する。</p> <p>○試書と教材文字を比べて話し合う。</p> <p>○教科書を参考にしながら、文字の大きさと配列、点画のつながりについて確認し、練習する。</p> <p>○『思いやり』をまとめ書きする。</p> <p>○目標に沿って、自己評価をする。</p> <p>○学習の成果を生かして、硬筆で『思いやり』『はずむ心』を書く。</p>	アイウ	<p>B：点画のつながりについて理解している。</p> <p>配列のポイントについて理解している。</p> <p>点画のつながりに気をつけて書いている。</p> <p>用紙に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。</p> <p>A：点画のつながりについて、よく理解している。</p> <p>配列のポイントについて、よく理解している。</p> <p>点画のつながりに、よく気をつけて書いている。</p> <p>用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心を揃えて配列よく書いている。</p> <p>支援：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。</p> <p>中心線が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。</p>	<p>B：点画のつながりについて考えている。</p> <p>用紙に対する文字の大きさと配列について考えている。</p> <p>A：点画のつながりについて、よく考えている。</p> <p>用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。</p> <p>支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。</p>	<p>B：点画のつながりについて関心をもっている。</p> <p>配列に気をつけて書こうとしている。</p> <p>A：点画のつながりや用紙に対する文字の大きさや配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。</p> <p>常に点画のつながりや用紙に対する文字の大きさ、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。</p> <p>学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。</p>
10月	1	22・23	【レッツ・トライ】文化—『枕草子』を書く	<p>○文字の大きさと配列に気をつけて書くことができる。</p>	<p>○縦罫線の用紙に『春はあけぼの』を硬筆で試書する。</p> <p>○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。</p> <p>○中心線が入ったものや、行頭に破線が入った練習用紙などを選択して練習する。</p> <p>○試書とまとめ書きを比べて評価する。</p> <p>○いろいろな筆記用具で、『枕草子』の好きな部分を選んで書く。</p>	アウ	<p>B：文字の大きさと配列について理解している。</p> <p>文字の大きさと配列に気をつけて書いている。</p> <p>A：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。</p> <p>行の中心と余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書いている。</p> <p>支援：文字の外形を囲むことで、文字の大きさを視覚的に確かめられるようにする。</p> <p>中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。</p>	<p>B：文字の大きさと配列について考えている。</p> <p>A：文字の大きさと配列について、よく考えている。</p> <p>支援：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。</p>	<p>B：伝統的言語文化の教材を書く意欲をもっている。</p> <p>文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。</p> <p>書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A：伝統的言語文化の教材を積極的に書こうとしている。</p> <p>文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。</p> <p>常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援：まだ学習していない漢字については、筆順と字形を確認するよう呼びかける。</p> <p>教科書の教材は、配列の整え方がどのようになっているか、確かめられるようにする。</p>

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	24・25	【知りたい文字の世界】 生活と文字	○日常生活の中で見られるさまざまな文字を探し、文字に対する関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られるさまざまな文字の印象について、話し合うことができる。	○事前に用意しておいた文字資料を提示する。 ○教室内の「文字」を探す。 ○集めた文字資料の中から、任意の数点をグループごとに選択して話し合う。 ○「手書き文字」「活字」それぞれの特徴や効果についてまとめる。	アウ	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について知っている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について話し合い、考えている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について積極的に話し合い、よく考えている。 支援 ：文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について、調べようとする意識をもっている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について、積極的に調べようとする意識をもっている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた文字資料を提示し、興味・関心を高めるようにする。
	3～4	26・27	5 文字の大きさと配列、点画のつながり（小筆） 『この道や行く人なしに秋の暮』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。	○『この道や行く人なしに秋の暮』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教科書を参考にしながら、文字の大きさと配列、点画のつながりについて確認し、練習する。 ○『この道や行く人なしに秋の暮』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。	アイウ	B ：配列のポイントについて理解している。 点画のつながりについて理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書いている。 点画のつながりに気をつけて書いている。 A ：配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりについて、よく理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて配列よく書いている。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見せ合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	B ：用紙全体に対する文字の大きさについて考えている。 点画のつながりについて考えている。 A ：用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。 点画のつながりについて、よく考えている。 支援 ：筆意に着目するよう促し、穂先の動きが確かめられるようにする。	B ：配列や点画のつながりについて関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：配列や点画のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11月	2	28・29	【レッツ・トライ】 小筆 —小筆を生かして書く	○小筆を学習や生活の中で生かす活動に、意欲的に取り組むことができる。 ○筆使いに気をつけて、小筆で書くことができる。 ○行の中心や余白のとり方に気をつけて書くことができる。	○教科書教材を小筆で書く。 ○小筆の持ち方・執筆方法を教科書の写真を参考に確認する。 ○基本点面の基準を確認する。 ○目標と基準を確認しながらまとめ書きをする。 ○学習の成果を生かして、小筆で年賀状や俳句を書く。	アイウ	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列について理解している。 筆使いに気をつけて、小筆で書いている。 配列や余白のとり方に気をつけて書いている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列についてよく理解し、字形を把握している。 筆使いに気をつけて、字形を整えて小筆で書いている。 余白のとり方に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：教科書の教材文字を参照し、小筆の筆使いが確かめられるようにする。 小筆の持ち方や筆使い、字配りの要点が視覚的に理解できるようにする。	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列を考えている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列の良さしを考えている。 支援 ：小筆の持ち方の図を使って、持ち方を確かめられるようにする。	B ：小筆を学習や生活の中で生かす活動に、意欲的に取り組もうとしている。 日常生活においても、小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：小筆を学習や生活の中で生かす活動に、積極的に取り組もうとしている。 常に小筆で字配りよく書こうとする意識をもっている。 支援 ：小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけるよう呼びかける。 日常生活におけるいろいろな機会でも、小筆を活用して、配列よく書くよう呼びかける。
11・12月	4～5	30～33	■好きな言葉を書く (『実現』『夢』『仲間』『友情』)	○好きな言葉を選び、自分のめあてを設定し、めあてに気をつけて書くことができる。 ○6年間で学習したことを生かして、意欲的に取り組むことができる。 ○毛筆で選んで書いた言葉を、硬筆で書いて確かめることができる。	○教科書の教材から自分の好きな言葉を選び、毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合い、自分のめあてを決める。 ○これまでの学習を振り返りながら、グループごとに基準を明確にする。 ○練習用紙を選択したり自作したりして練習する。 ○基準に気をつけてまとめ書きをして、試書と比べる。	アイウ	B ：これまで学習した配列や字形の整え方について理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて書いている。 A ：これまで学習した配列や字形の整え方について、よく理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 それぞれの教材における要点について、個別に支援するようにする。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：選んだ教材を試書することで、自分のめあてが見つけれられるように支援する。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、書こうとしている。 ほかの学習場面においても、字形の整え方や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、積極的に書こうとしている。 常に字形や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分が書いてみたい言葉を選び、その教材におけるポイントを確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形や文字の大きさ、配列に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月			書きぞめ 『理想』 『伝統を守る』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整	○『理想』（または『伝統を守る』）を試書する。 ○書きぞめの姿勢を知る。 ○試書と教材文字を比べ、基準を理解する。 ○基本点面に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べ、	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。 B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	4～5	43, 45 ～48		えて書くことができる。 ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	自己評価する。		A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について、よく理解している。これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：教科書で学習した文字の組み立て方のポイントについて振り返ること、確かめられるようにする。書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	A ：書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。常に姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。書写の授業以外でも、姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
		44	はってん —「行書」	○中学校で学習する行書の書き方について、興味・関心を高めることができる。	○身のまわりにある行書で書かれた文字を用意しておき、行書への関心を高める。 ○教科書の楷書と行書で書かれた『春』の文字を比較して、違いについて話し合う。 ○楷書と行書で『春』を書く。	アイウ			B ：中学校で学習する行書について、関心を高めている。 A ：中学校で学習する行書について関心を高め、積極的に学習に取り組もうとしている。 支援 ：身のまわりで見られる行書で書かれた文字を例示して、関心を高める。
2・3月	3～4	34・35	6 学習のまとめ 『旅立ちの時』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。 ○文字の大きさに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『旅立ちの時』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○漢字と平仮名の大きさや配列について理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『旅立ちの時』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。	アイウ	B ：これまで学習した内容について理解している。これまで学習したことを生かして、自分の課題に気をつけて書いている。文字の大きさや配列に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した内容について、よく理解している。これまで学習したことを生かして、自分の課題に気をつけて、字形を整えて書いている。文字の大きさや配列に気をつけて、丁寧に書いている。 支援 ：学級全体で意見を出し合い、1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。中心線を引いたり、文字の外形を囲んだりして、具体的に示すようにする。	B ：1年間の学習を振り返り、自分の課題について考えている。文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。 A ：1年間の学習を振り返り、自分の課題について、よく考えている。文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 支援 ：これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	B ：1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめようとしている。ほかの学習場面でも、文字の大きさや配列など、これまで学習したことに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を積極的に確かめようとしている。常に文字の大きさや配列など、これまで学習したことに気をつけて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容を確かめられるようにする。書写の授業以外でも、文字の大きさや配列、字形などに気をつけて書くよう呼びかける。
		六年間で学習したこと	○文字の形や大きさ、組み立て方などに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○縦罫線の用紙に、配列に気をつけて書くことができ	○教材文字を見ながら1年間で学習したことを振り返る。 ○縦罫線の用紙に教科書の教材文を試書する。 ○中心に線を引いて自己批評する。 ○文字の大きさや配列に気を	アイウ	B ：これまで学習した内容について理解している。文字の大きさや配列について理解している。 支援 ：学級全体で意見を出し合い、1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。中心線を引いたり、文字の外形を囲んだりして、具体的に示すようにする。	B ：6年間の学習を振り返り、自分の課題について考えている。文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。	B ：6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめようとしている。	

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		36・37		る。 ○6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめることができる。	つけて、まとめ書きをする。		A ：これまで学習した内容について、よく理解している。 文字の大きさや配列について、よく理解している。 支援 ：学級全体で意見を出し合い、1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。	A ：1年間の学習を振り返り、自分の課題について、よく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 支援 ：これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	A ：1年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を進んで確かめようとしている。 支援 ：これまで学習した教科書紙面を参照し、学習内容が確かめられるようにする。
		38・39	【知っておこう】 手紙 —お願いの手紙	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アウ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について、よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		
		40～42	【書いて 伝え合おう】 卒業制作 —思い出に残る言葉を書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○筆記用具の特徴を知る。 ○これまで学習した、紙面に対する文字のおさめ方について確認し、基準を理解する。 ○自分の決めた文字を入れて練習する。 ○補助線を入れるなど、自分の表現方法に合った練習用紙を作成する。 ○友達と交換し、成果を認め合う。	アイウ	B ：効果的に書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：効果的に書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：効果的に書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：効果的に書くための基準について確かめられるようにする。	B ：ほかの学習場面でも、配列に気をつけて書くことを、その目的や効果を考えて成果物に生かそうとしている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 常に書く目的や効果を考えて、書写で学習した内容を日常生活に生かそうとしている。 支援 ：昨年の6年生が制作した成果物例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	適時	49～52	【漢字表】 六年生で学習する漢字 五年生で学習した漢字	○5年生で学習した字形の整え方などを確かめることができる。 ○6年生で学習した筆使いや筆順、組み立て方などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した、漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順がまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から、巻末漢字表の文字を分類し、印を書き込む。 ○友達と見せ合い、正しく書けたか相互評価する。	アウ	B ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて、よく理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字を正しく仲間分けしている。	B ：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて判断している。	B ：巻末漢字表を使った仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて、関心を高めている。 ほかの学習場面でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：巻末漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて関心を高め、積極的に取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうと

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							る。 支援 ：今まで学習した文字の組み立て方などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 辞典などを使って、漢字の部分について調べるようにする。	支援 ：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	する意識をもっている。 支援 ：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。
		53	【平仮名表】 【消しゴム印の作り方】	○平仮名の字形や筆順について確かめることができる。	○「平仮名表」を見て、平仮名の筆順や字形を確認する。 ○字形がうまくとれない文字について、重点的に練習する。	アウ A ：平仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。	B ：平仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。	B ：平仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 常に平仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。	